



「強く、明るく、美しく」を指標に表すと

校長 森 和 久

お子様のご卒業おめでとうございます。6年生のみなさんは常に最高学年としての自覚を持ち、学校全体のことをよく考えて行動してくれました。この経験を中学でも生かして行ってほしいと思います。

さて、6年前私が本校に赴任したとき、校訓とぴったりの「強く、明るく、美しい」子どもたちの印象に感銘を覚えました。少々のことではへこたれない強さと、物事を前向きにとらえる明るさに加え、品のよい適切な行動を取ることができる美しさを合わせもった素晴らしい子どもたちの姿は、代々脈々と引き継がれています。卒業生の皆さんには、卒業後もこの3つの特性を伸ばして行ってほしいと思います。

さて、先月号で目標を立てる際には、人と比べる相対的な基準ではなく、絶対的な基準を考えるとよいということを述べました。では、「強く、明るく、美しい」人になるという目標の達成度を測るための絶対的な基準を設定するとすればどうなるのでしょうか。

そもそも、人の性格や行動特性を客観的に判断することは難しいです。「強さ」「明るさ」は、物理的には「何トンの重さに耐えられる」、「〇〇ルーメン」といった分かりやすい指標が思い浮かびますが、人の「明るさ」はルーメンでは表せません。ましてや「美しさ」の場合は、主観によるところが大きいので、物であっても指標の設定は困難です。ということは「強く、明るく、美しく」の指標化は、やはり無理でしょうか。私は、難しいかもしれないけれども、それを指標化することを考えることは、意義があることなのではないかと考えています。

少し私なりの思考の過程を紹介します。まず「強さ」についてですが、例えば「強さ」を、「自分で決めたことを継続的に粘り強く行う力」と定義すれば、「目標を何日間継続できたか」というような基準が設定で

きます。フィジカルな面の「強さ」を求めるなら「体力診断テストの数値」が基準になるかもしれません。

「明るさ」は、「強さ」よりは基準の設定が困難です。「物事を前向きにとらえる力」と規定したらどういふ指標が設定できるのでしょうか。心理テストや適性検査などで測る方法はありますが、それは自分の日常のありようを自己評価する基準にはなりません。例えば、自分は悩んだときにあれこれ考えて過ぎて結果落ち込んでしまう傾向にあると思いついたとするなら、その改善を意図した指標として、「悩み事に直面した際、3日以内に、どんな些細な行動でもよいので何か行動を起こすことができているか」というのはどうでしょう。あるいは「どんな課題に直面した際も毎日3食食べているか」というのもよいかもしれません。

「美しさ」は、何を「美しい」とするかを考えることが難しいところです。「どのような場面でも自分が『美しい』と考える行動を取ることができること」と定義するなら、「毎朝『おはようございます』が言えているか」が指標になるかもしれません。

以上私なりに考えてみましたが、全く個人的な思考の過程なので、他の人の参考にはならないかもしれません。けれども、自分がどうありたいのか、具体的な場面でどのような行動を取るとよいのかということ熟考して、指標を定めてみることは、それを考えること自体に意義があると考えますし、その指標が継続的な行動指針になればより意義深いのではないかと考えます。

最後に私事ですが、この3月で、本校の校長を退きます。6年間大変お世話になりありがとうございました。心より感謝申し上げます。卒業生の皆様には、ご縁がありましたら、椋山女学園大学教育学部でお会いできることを楽しみにしております。

